

(活動報告書様式)

助成事業実施 団体名	認定 NPO 法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭		
実施事業名	「世界のリアルに触れよう！」 海外の映像作家との交流による国際理解教育事業		
助成事業区分	※該当する事業名を○で囲んでください。 ○協働助成事業（一般型）【県政課題名：国際理解教育】 協働助成事業（テーマ希望型）【テーマ名：】 団体支援助成事業		
団体の所在 市町村名	山形市	事業費及び 助成額	事業費 511,190 円 助成額 500,000 円



■事業目的■映像が氾濫する現在であるにも係わらず、全国的にも山形県内においても若年層に対する映像教育やメディアリテラシー教育が十全に行われているとは言い難い。県内の学童・学生等の若い世代や地域の人々が、優れたドキュメンタリー作品を鑑賞し、山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 に参加する海外の映像作家と直接的な交流を通し、映像教育と国際理解教育の貴重な機会を山形県内各地で実現した。

■実施内容■（1）2015年10月13日 山形市民会館、山形市立第四中学校 1・2年生と教諭 約600名が、国際コンペ作品「ラスト・タンゴ」を団体鑑賞、監督や製作者と質疑応答を行った。（2）2015年10月13日 山寺中学校 2年生が、山寺ツアーに参加した映画祭参加監督等を、英語でガイドし山形の観光地と文化を紹介し交流を行った。（3）2015年10月15日 東根市立大森小学校 90名の小学生がインドネシアの監督等と「フィルムをつなげて映画を作ろう」ワークショップを体験。海外の監督と芸術創作体験を行った。

（4）2015年10月15日 米沢市アクティ米沢を会場に、米沢市民が南米作品「わたしはここにいる」を上映し、監督の講演会を開催、地元の演奏家によるコンサートも併せて行い、市民参加の国際文化交流を行った。（5）2015年10月15日・16日 大江町里山交流館「やまさあべ」にて、「七軒映画祭」を開催し、海外ゲスト監督を招聘し、トークと上映を行った。（6）2015年10月16日 鶴岡市の鶴岡まちなかキネマにて、庄内地域市民が主催となり、「メキシコと出羽にこだまするもの」をテーマに、山形映画祭 2015 審査員ニコラス・エチェバリア監督を招聘し「山の木霊」上映と交流トーク開催。また監督が描いてきた世界とも共通することから、鷹匠や羽黒山伏との交流や出羽三山文化の紹介も併せて行った。双方非常に感銘深い体験となった。

■今後の展望■山形県は、地域資産である活発な映像文化によって教育や地域活性化を図る国際的な芸術文化創造都市として発展することが望ましい。今後、地方創成や、文化庁・ユネスコが進める創造都市の事業としても教育界と連携し、当事業を継続するとともに、「アーティスト・イン・レジデンス」など海外アーティストの長期滞在による若年層へのワークショップ等を通して、より深い国際理解交流に発展させたい。

■当団体の活動■当団体は、1989年より、山形市で隔年で国際ドキュメンタリー映画祭を開催し、優れた作品と作家の発掘を行い、多様な世界を見つめる多様な映画を上映、映画製作者と観客や県民の交流を通して国際理解を深める活動を行っている。また県内各地で映像文化による地域活性化をめざし活動している。

■認定 NPO 法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭 ホームページ <http://www.yidff.jp/home.html>